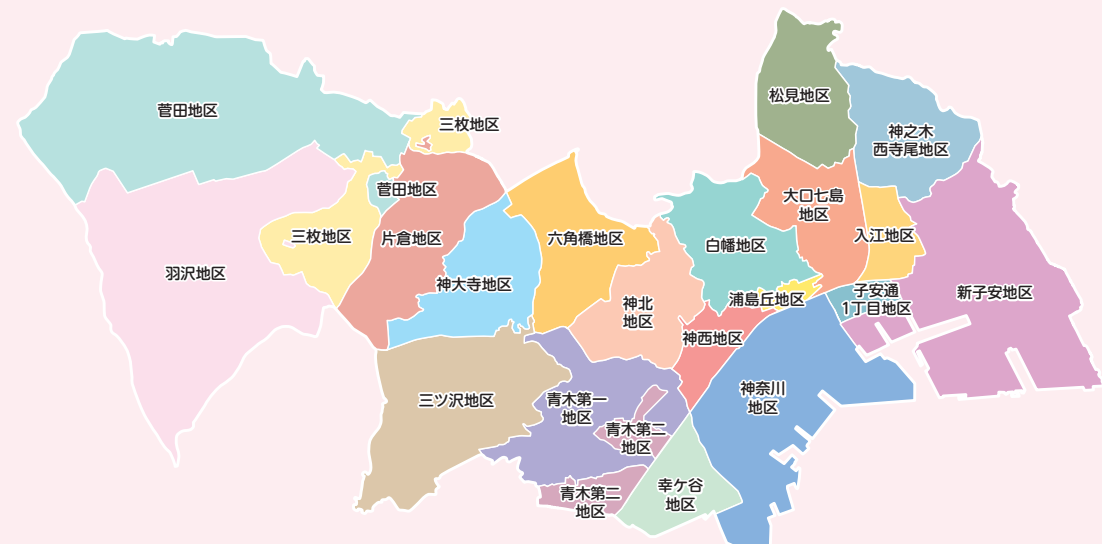


5年かけて各地区で目指すこと

地域の皆さんが中心となって、21ある地区連合町内会のエリアごとに「こんな地域になったらいいな」という思いや目標を設定しています。ここでは、各地区が5年間で目指す姿(スローガン)についてまとめています。地区ごとの詳細な目標などは、各地区別計画をご確認ください。



地区名	スローガン	地区名	スローガン
新子安	つながり、支え合う、笑顔のまち 新子安	浦島丘	“みんなが”つながりあって、 安心なまち 浦島丘
子安通 1丁目	歴史が世代をつなぐまち 子安通1丁目	青木第一	緩やかなつながりで様々な人が 地域で支え合うまち 青木第一
入江	隣人との絆と連携から 笑顔があふれるまち 入江	青木第二	防災を通じた世代間交流のまち 青木第二
神之木 西寺尾	支え合う「向う三軒両隣」のまち 神之木西寺尾	三ツ沢	多世代の多様な人たちが ゆるやかにつながって一人ひとりが 自分らしく暮らせるまち 三ツ沢
松見	笑顔であいさつ松見町 住んでよかった松見町	神北	みんなが「共に生きる」まち 神北
大口七島	みんなで助け合う町 大口七島	六角橋	おたがいさまでつなげる 六角橋
白幡	つながり 安心 支えあい 白幡	神大寺	つながり支え合うまち 神大寺
神奈川	もっとつながる 広がる 神奈川の「わ」	片倉	見守りから広げよう 安心と やさしさのある地区を目指す 片倉
幸ヶ谷	柔らかに、ゆるやかに つながるまち 幸ヶ谷	菅田	助け合えるまち 交流のあるまち 菅田
神西	向う三軒両隣 笑顔の あふれるまち 神西 ～信頼・つながる・お互い様～	羽沢	助けられ上手、助け上手な街 羽沢
		三枚	みんなできりくむ 「住みやすい町」三枚



3年目の取組事例

第4期計画 推進中

長年にわたり、社会の変化に対応しつつ、着実に活動をしている事例をご紹介します!

会食会ボランティア 白幡こぶしの会

白幡こぶしの会は、白幡南町のエリアで、65歳以上の一人暮らし、日中独居、高齢者のみの世帯を対象に、毎月1回会食会を開催している団体です。神奈川区の木「こぶし」から名前をとり、平成4年から始まって30年以上活動しています。

旬な食材を使い、季節感のある料理は参加者からも好評です。また、誕生日にお花をプレゼントしたり、新年会に脳トレ・雑学等をまとめた手作りの冊子を配布したりと、参加者に楽しんでもらう工夫もしています。

スタッフからは、「自分のできる範囲・役割で、楽しく活動できている」「美味しいと言ってもらえるのは嬉しい」「楽しみと待っていてくださる声を励みに活動しています」などの声があがっています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、現在は、会食会ではなく、配食を実施しています。会食会を再開してほしいという要望もありますが、継続できるやり方を参加者と一緒に模索しながら、活動を継続しています。



特定非営利活動法人 くじらぐも

特定非営利活動法人くじらぐもは、子ども達の健全育成に向けて、関係者が集まって、制度のはざままで悩んでいる方を支援するために活動している団体です。小学校1年生の国語の教科書に掲載されている「くじらぐも」から、「子ども達の夢をいっぱい乗せて 空高く舞い上がれ」という想いを込めて「ぐりとぐら」でお馴染みの中川李枝子先生と光村図書出版の認証の下、名付けられました。

活動が始まったのは今から50年前まで遡ります。カウンセラーの仕事をしていた設立者が、子育て中の母親から悩みを聞きアドバイスをしたり、一時的に子どもを預かったりしたのが原点となっています。

活動の一つである相談事業では、発達障害や不登校、ひきこもりなど困難を抱えた親子等を対象に、各分野の専門家と連携しながら、あらゆる相談に対応しています。当事者(親子と学校等)同士が話し合うことでは円満な解決が難しい場合、中立の立場で間に入り(リエゾン支援)、場合によっては1年以上関わりながら、より良い改善策を見出していきます。



ホームページはこちら

他の活動紹介はこちら



1人の100歩より 100人の1歩

概要版

誰もが住み慣れた地域で、
健やかに、安心して暮らせるまちを

「みんなでつくろう」



かながわ支え愛プラン

(第4期神奈川区地域福祉保健計画)

計画期間: 令和3年度～令和7年度

神奈川区ってどんな区?

人口

人口が緩やかに増加
(市内第5位)
★高齢化率: 22.0%

世帯

一人暮らしが多く、
世帯規模も小さい
★市平均: 2.05人
★区平均: 1.87人

交通の利便性

6路線
15の駅



商店街

23の商店街
多様なイベントや地域に
密着したサービスを
展開しています

キャッチフレーズ

海と緑と丘のまち
神奈川区

マスコットキャラクター

かめ太郎
(浦島太郎の
伝説にちなむ)



※高齢化率および世帯規模は、住民基本台帳(令和3年3月時点)の数値です。

5年かけて区全体で目指す3つの柱

柱1 誰もが「ひとりぼっちにならない」まちづくりを進めます!

一人ひとりが抱える困りごとへの理解が広がり、見守りや声かけが進み、交流の場が広がるまちをつくります。また、困った時に身近な相談先につながるまちを目指します。



知らないことを知る

交流の場を広げる

困ったときの身近な相談窓口を知る

柱2 「みんなのチカラを発揮できる」まちづくりを進めます!

誰もが誰かのために貢献でき、いきいきと生きがいをもって健やかに暮らせるまちをつくります。

また、若い世代が地域活動に参加しやすい工夫や仕組みを考え、皆が主役になれるまちを目指します。

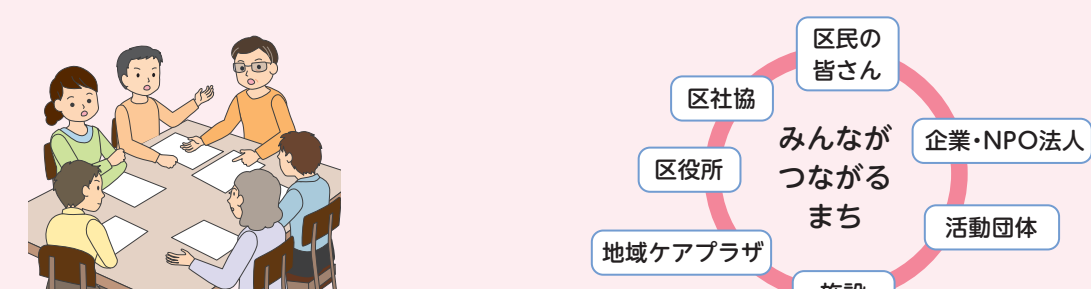


自分でできることを活かして生きがいのある暮らし

新たな力が活躍できるまち

柱3 「地域のチカラがつながり合う」まちづくりを進めます!

様々な人が、より暮らしやすいまちをつくるために継続して話し合い、相互に関わり、皆が一体となって進めていけるまちを目指します。



実現のための継続的な話し合いの場

様々な人・団体・施設・関係機関・企業の連携

5年かけて区全体で具体的に行うこと

3つの柱は、区民の声や活動団体などの声をもとに作成しました。それぞれが取り組むことを一部抜粋して紹介します。

区民のみなさん

- 子育て、障害、認知症などの勉強会や交流イベントに参加してみます。
- ご近所同士の交流(挨拶、助け合い)を大切にします。
- 自分の住むまちのことに興味を持ち、イベントや話し合いの場などに参加してみます。
- 趣味や特技、経験を活かして誰かのためにできることをチャレンジしてみます。

活動団体・各種施設・関係機関など

- 誰もが参加しやすくなるような活動メニューを増やします。
- 多世代交流などができるきっかけや場をつくります。
- 他の関係機関や活動団体と連携しながら、まちづくりを進めます。
- SNSなどの新しい情報発信の方法を検討します。

地域ケアプラザ※

- 子どもから高齢者まで誰もが集まり交流できる機会をつくります。
- 困った時には誰もが地域ケアプラザに相談できる環境をつくります。
- 福祉教育やボランティアなど子どもの頃からまちの活動に関われる機会をつくります。
- 地域包括支援センターの専門性を活かして、住民や関係機関とまちの困りごとについて話し合える場をつくります。

誰がどう 取り組むの?

区社会福祉協議会

- 生活困窮、権利擁護、障害に関する「知る」「理解する」ための様々な機会をつくります。
- 身近な場所で誰でも参加できるボランティア活動体験の機会を増やします。
- 地域の活動団体や福祉施設などとのつながりを活かして、様々な立場の人とまちのことを話し合える場をつくります。
- 福祉施設や企業などのメリットとなることを増やし、地域貢献活動を進めます。

区役所

- 地域にある相談機関や身近な相談相手を広くPRします。
- 子どもから高齢者まで健康や生活などに関する相談をお受けし、各課が連携して対応します。
- 地域づくり大学などを通じて、新たな担い手をまちの活動につなげます。
- 地域福祉保健計画の推進会議の開催を通して、各団体や各地区での取組が推進できるよう支援していきます。

※地域ケアプラザは、地域包括支援センター 若竹苑も含めて記載しています。

5年間のスケジュールと進め方

目標の達成に向けて、区民の皆さん、活動団体・各種施設・関係機関、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会、区役所等が協働して、活動を進めていきます。

また、毎年、団体ごとに取組等の振返りを行い、まち全体で共有し、各団体の取組や計画に反映します。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
区全体・各地区で 目指す姿が実現するまでの スケジュール	活動や取組の推進 →				
	振返り →	振返り →	振返り →	振返り →	振返り →
				次期プランの検討 →	

振返りの視点① 取組を多くの人に知ってもらえたか

振返りの視点② 様々な人や団体と協力して取り組めたか

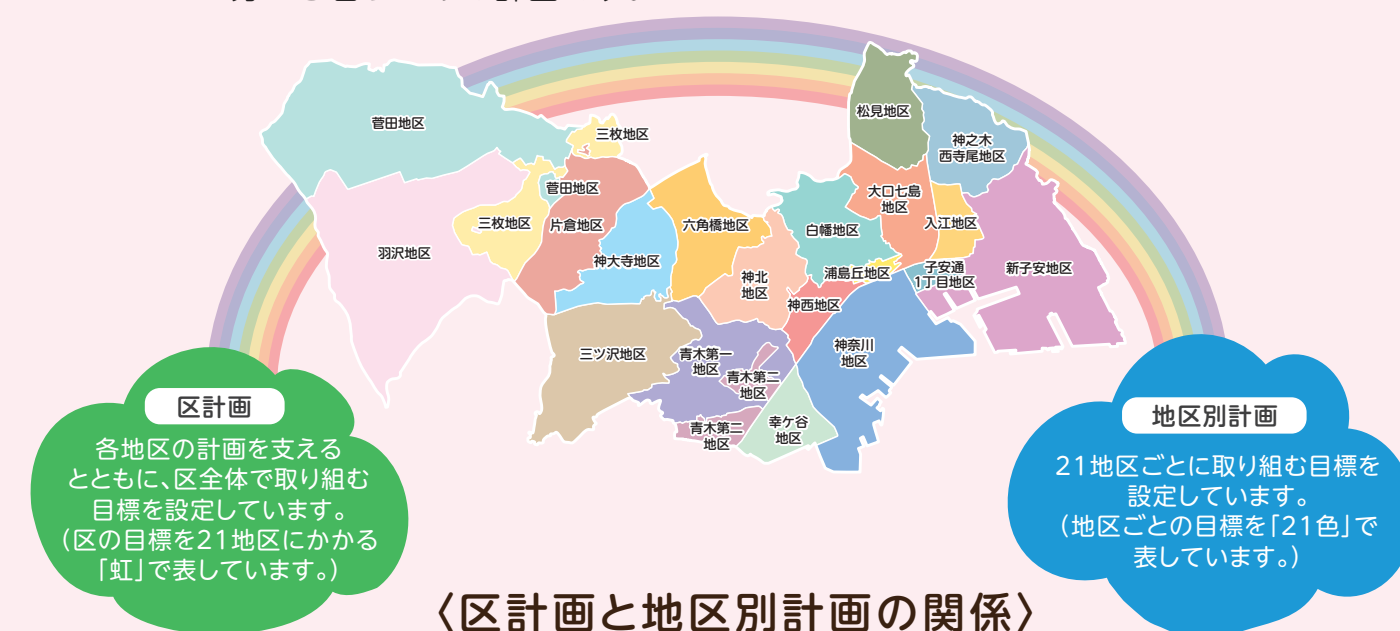
振返りの視点③ 取組が継続しておこなわれたか

振返りの視点④ 地域にとってどんな良いことが起こったか

地域福祉保健計画とは?

地域福祉保健計画は、社会福祉法第107条による地域福祉の推進に関する事項を定める計画として位置づけられています。横浜市では、より身近な地域課題について話し合い、解決に向けての取組に結び付きやすいよう、市・区・地区別ごとに計画を策定しています。

「かながわ支え愛プラン」は、神奈川県に関わる「皆さん」が健やかに安心して暮らせるように、今後5年間の区と各地区の“目指す姿”を分かち合うための計画です。



〈区計画と地区別計画の関係〉

区計画
各地区の計画を支えるとともに、区全体で取り組む目標を設定しています。(区の目標を21地区にかかると「虹」で表しています。)

地区別計画
21地区ごとに取り組む目標を設定しています。(地区ごとの目標を「21色」で表しています。)